

第270回 NRIメディアフォーラム

潜在保育士の6割が保育士としての就労を希望 ～「勤務時間や勤務日など希望に合った働き方」を最も重視～

2018年10月3日

株式会社野村総合研究所
未来創発センター

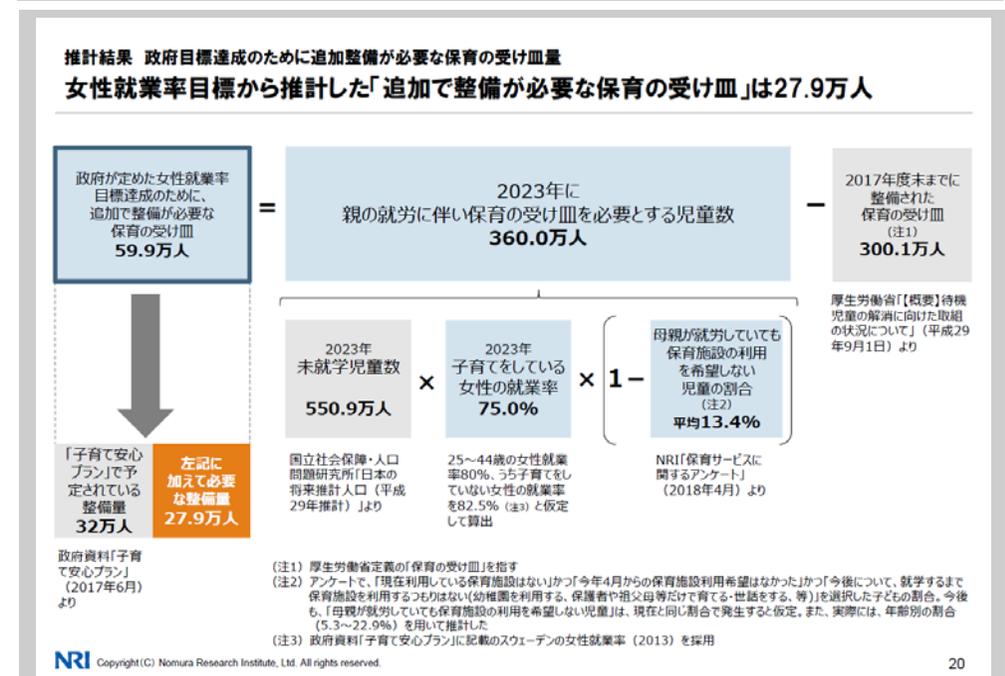


はじめに (1/2)

■ 保育施設の積極的な整備が進むものの、「待機児童問題」は依然として終息への道筋が見えません。NRIは、長年に渡り、「待機児童問題」が終息しない原因の一つは、「保育施設を利用したい」という保護者のニーズに対し、どこまでが対応すべきニーズで、どこからはそうではないのかといった、“ボーダーライン決め”の議論が中心になっていることだと考えます

■ そこで、NRIは、今後整備すべき保育の受け皿の量を従来とは異なる視点で可視化することが、保育の受け皿充足に向けた検討を前進させる上で必要と考え、2017年5月と2018年6月に、「政府が定める女性の就業率目標を達成するためには、どの程度の保育の受け皿が必要か」についての調査・推計結果を発表しました

今年6月に発表した調査・推計結果 (2018年6月26日発表)



はじめに (2/2)

- NRIは、保育の受け皿整備は、女性の就労実現による労働力の確保はもちろん、出生率向上による人口維持の実現ももたらす可能性があることから、保育の受け皿整備を、我が国の持続的な経済成長実現のための有効な手段として捉え、進めるべきであると考えています
- 一方、保育の受け皿整備を進めるにあたっては、保育士の確保が必要です。国や自治体による保育士確保に向けた様々な策が展開されていますが、保育現場の人材不足は引き続き深刻です
- そこで、NRIは、我が国の持続的な経済成長実現のための有効な手段である保育の受け皿整備を進める上で課題となっている保育士確保にも着目し、実態と課題の把握を行いました
- 全国の保育士資格を持つ女性7,210人に対して実施したアンケート調査の結果から明らかになった潜在保育士の実態と、それに基づき考えられる保育士確保に向けた提案についてご報告します

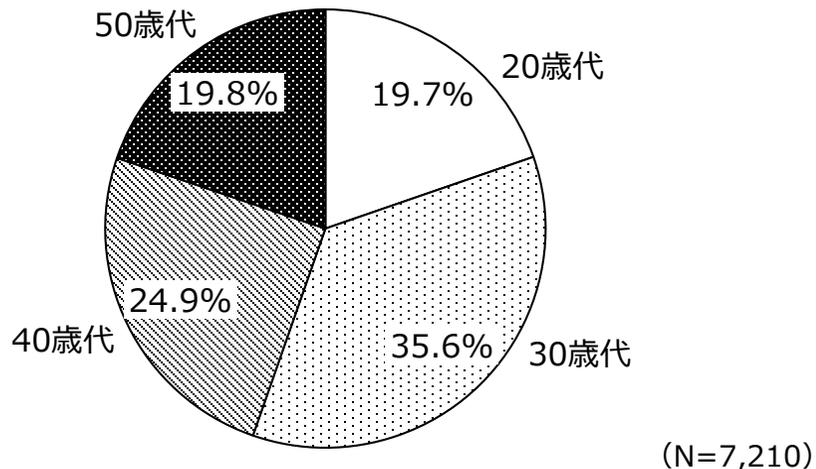
「保育士に関するアンケート調査」の実施概要

	本調査	追加調査
実施時期	2018年7月31日～8月6日	2018年8月30日～8月31日
調査対象	全国の保育士資格を持つ20～59歳の女性 7,210人	本調査回答者のうち「保育士としての就労意欲 を持つ現在非就労の潜在保育士」に該当した人 1,000人 (該当者に追加調査を配信し、予定した 1,000サンプルに達するまで回答を回収)
調査方法	インターネット調査	インターネット調査

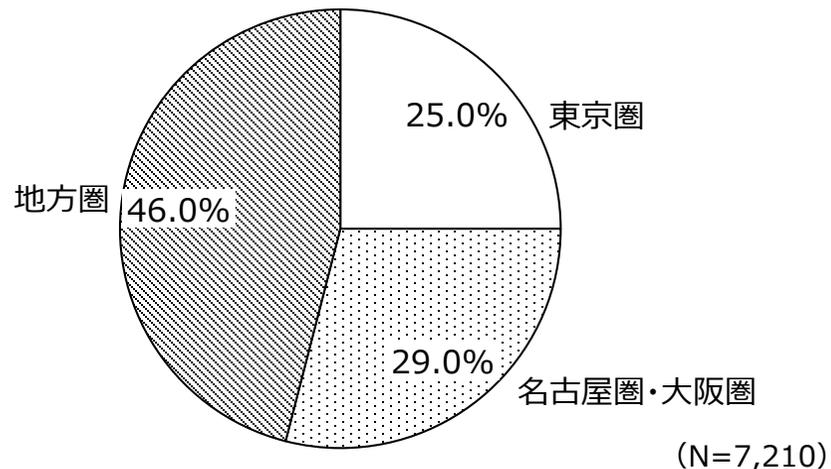
- ※ 本調査では、保育士資格を保有しているが現在保育士として働いていない人のことを「潜在保育士」と呼ぶ
- ※ 本資料に掲載する構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある

「保育士に関するアンケート調査」の回答者属性

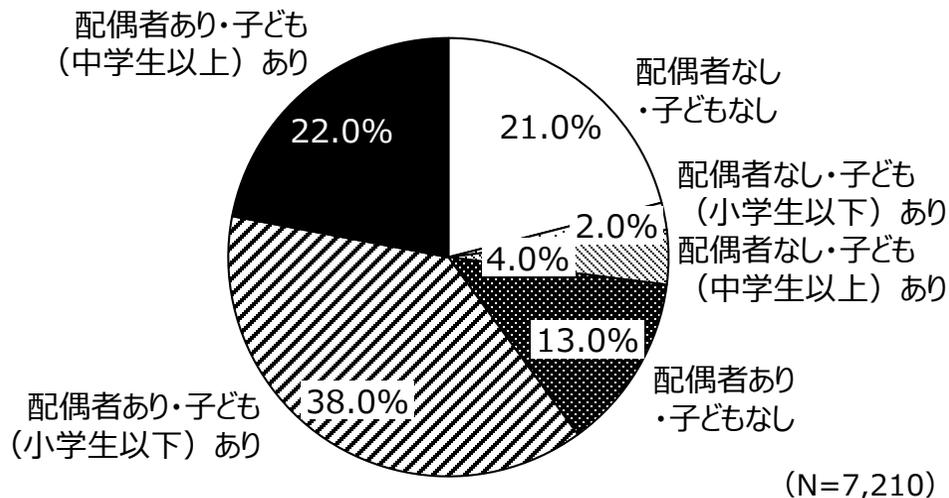
年代



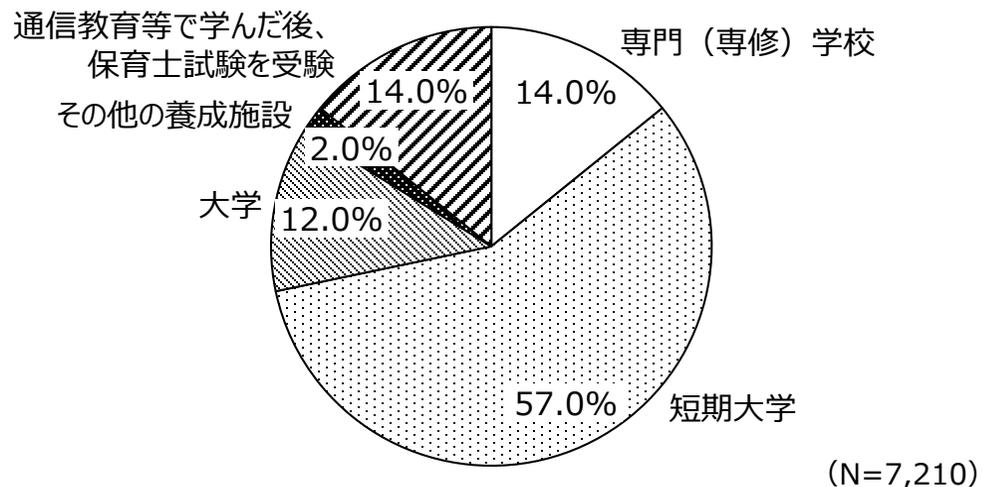
居住地



配偶者有無／子ども有無

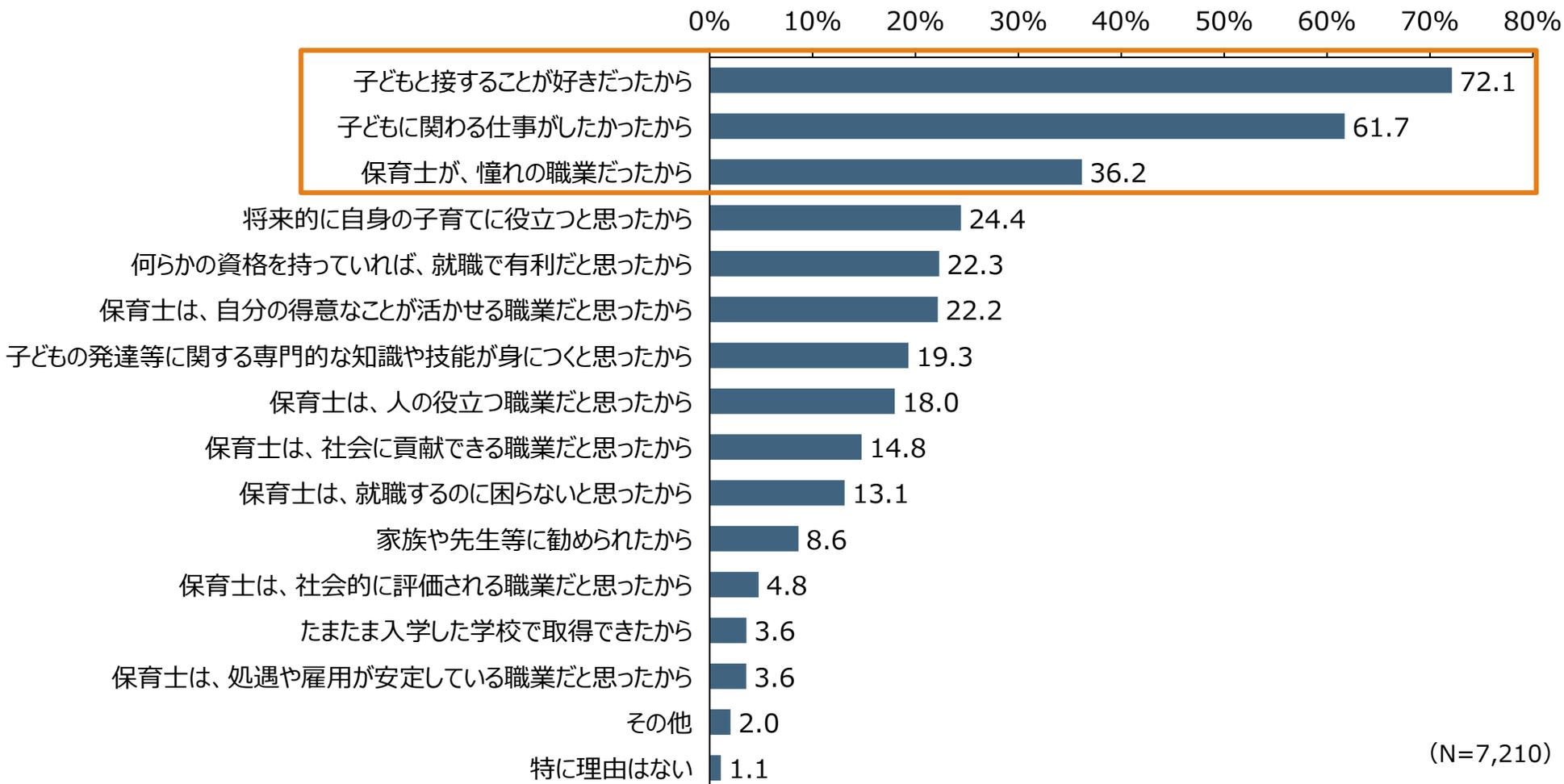


保育士資格取得方法



多くの人が、「子どもと接することが好き」、「子どもに関わる仕事がしたい」という思いで、保育士資格を取得

保育士資格を取得した理由

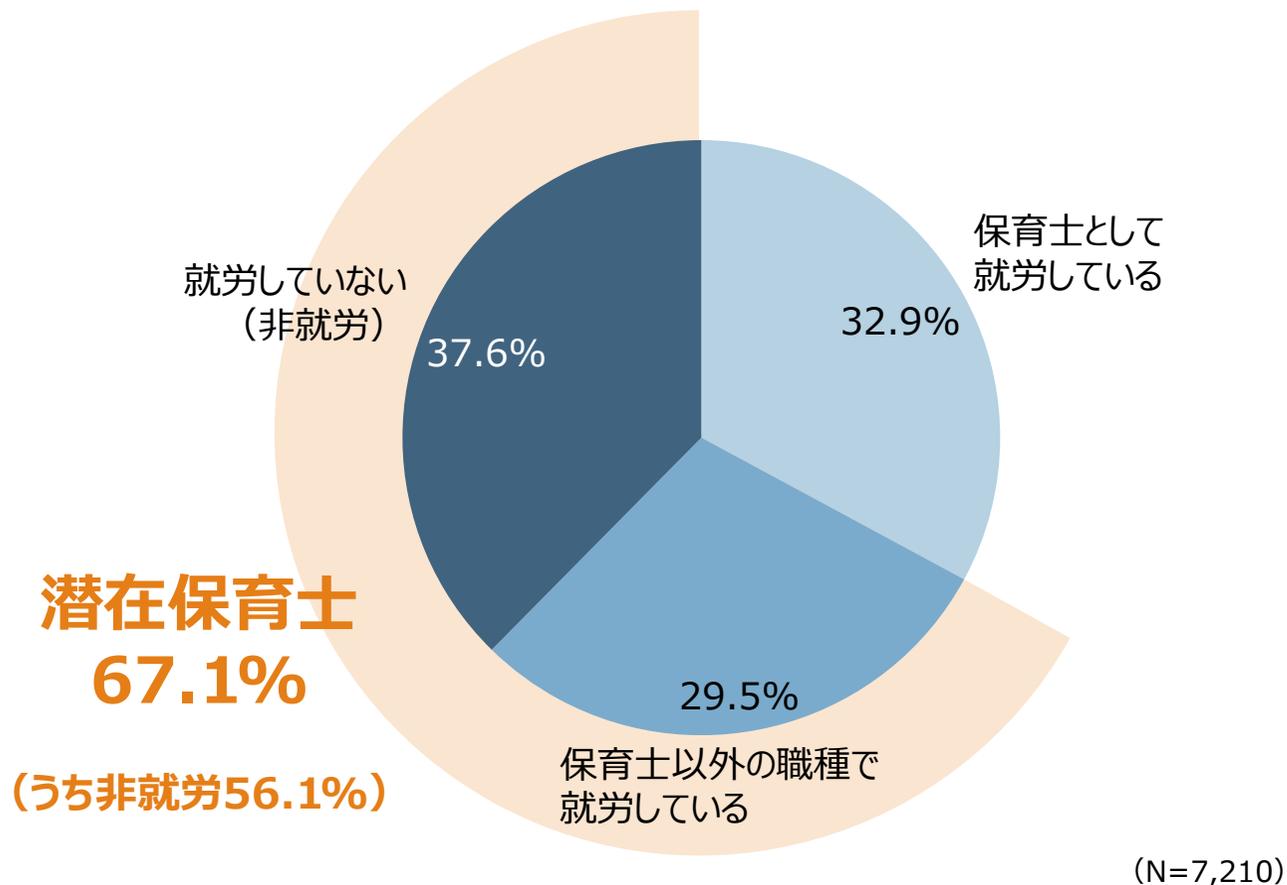


(N=7,210)

保育士資格保有者の現在の就労状況

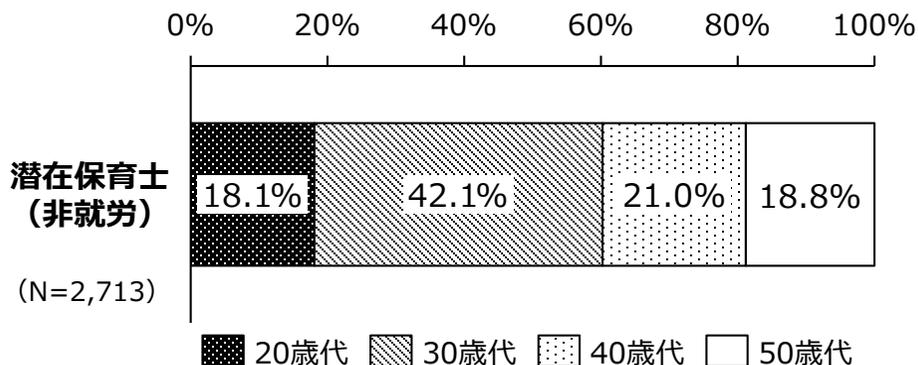
67.1%が保育士資格を持ちながら保育士として働いていない「潜在保育士」
うち過半数(56.1%)は現在働いていない「非就労」

保育士資格保有者の現在の就労状況

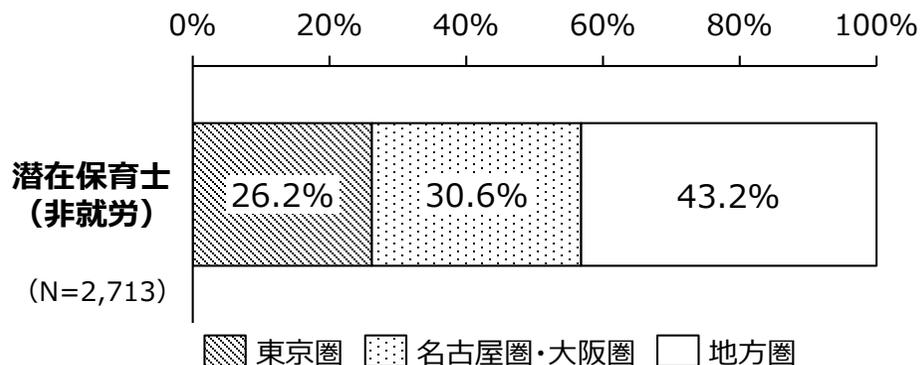


非就労の潜在保育士は、各年代、各地域に存在 5割が既婚で小学生以下の子を持ち、6割強が過去に保育士として働いた経験を持つ

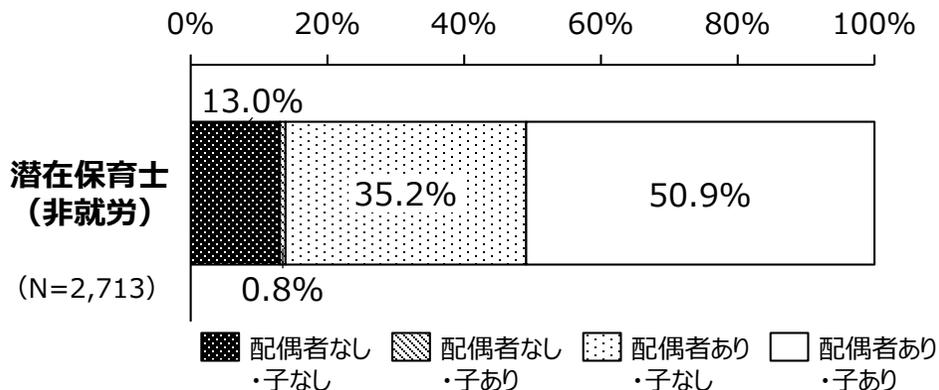
年代



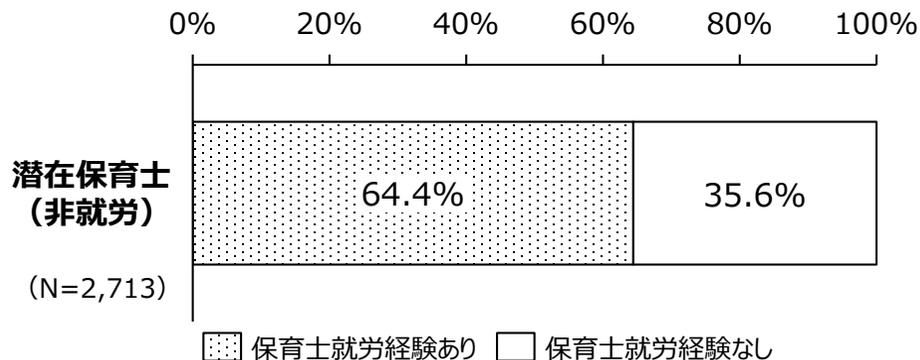
居住地



配偶者と子ども（小学生以下）の有無

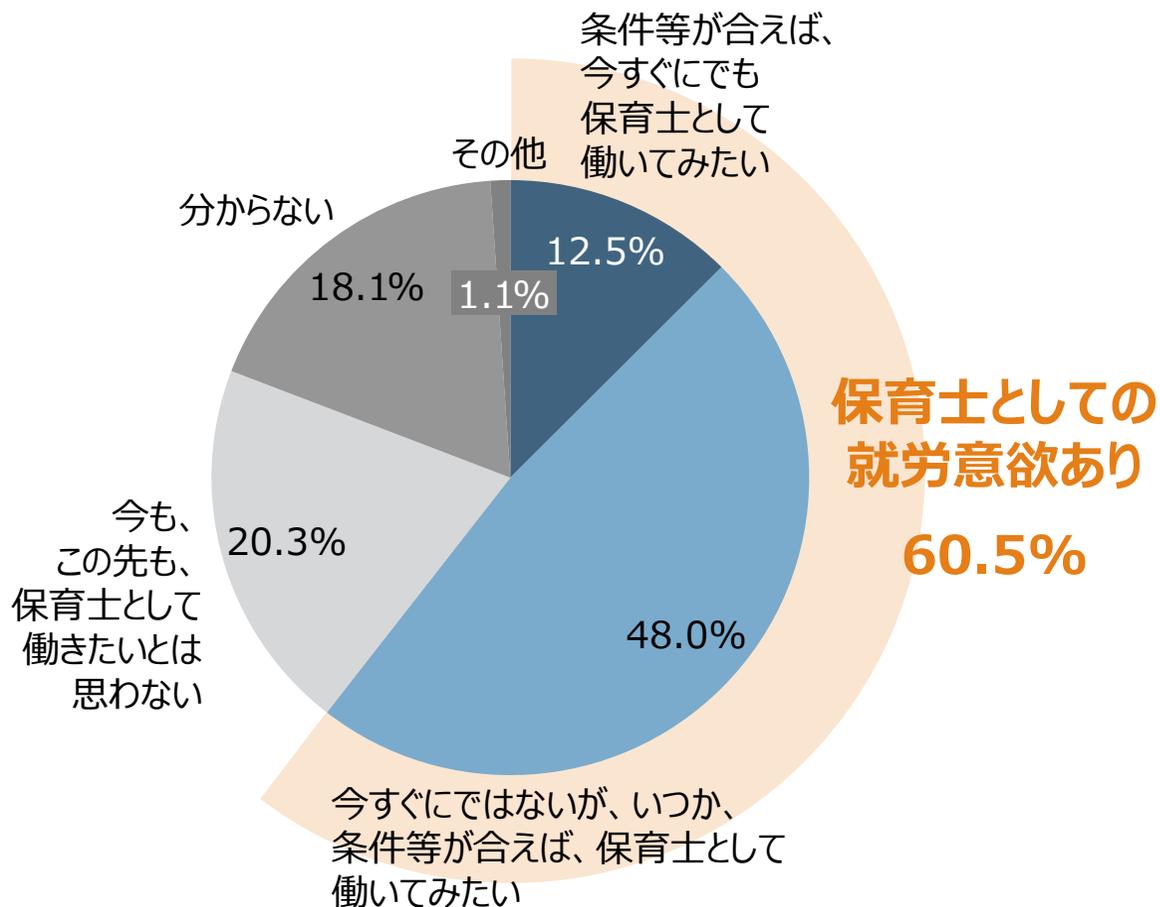


保育士としての就労経験の有無



非就労の潜在保育士のうち、60.5%が「今後保育士として働いてみたい」

保育士としての就労意欲（非就労の潜在保育士）

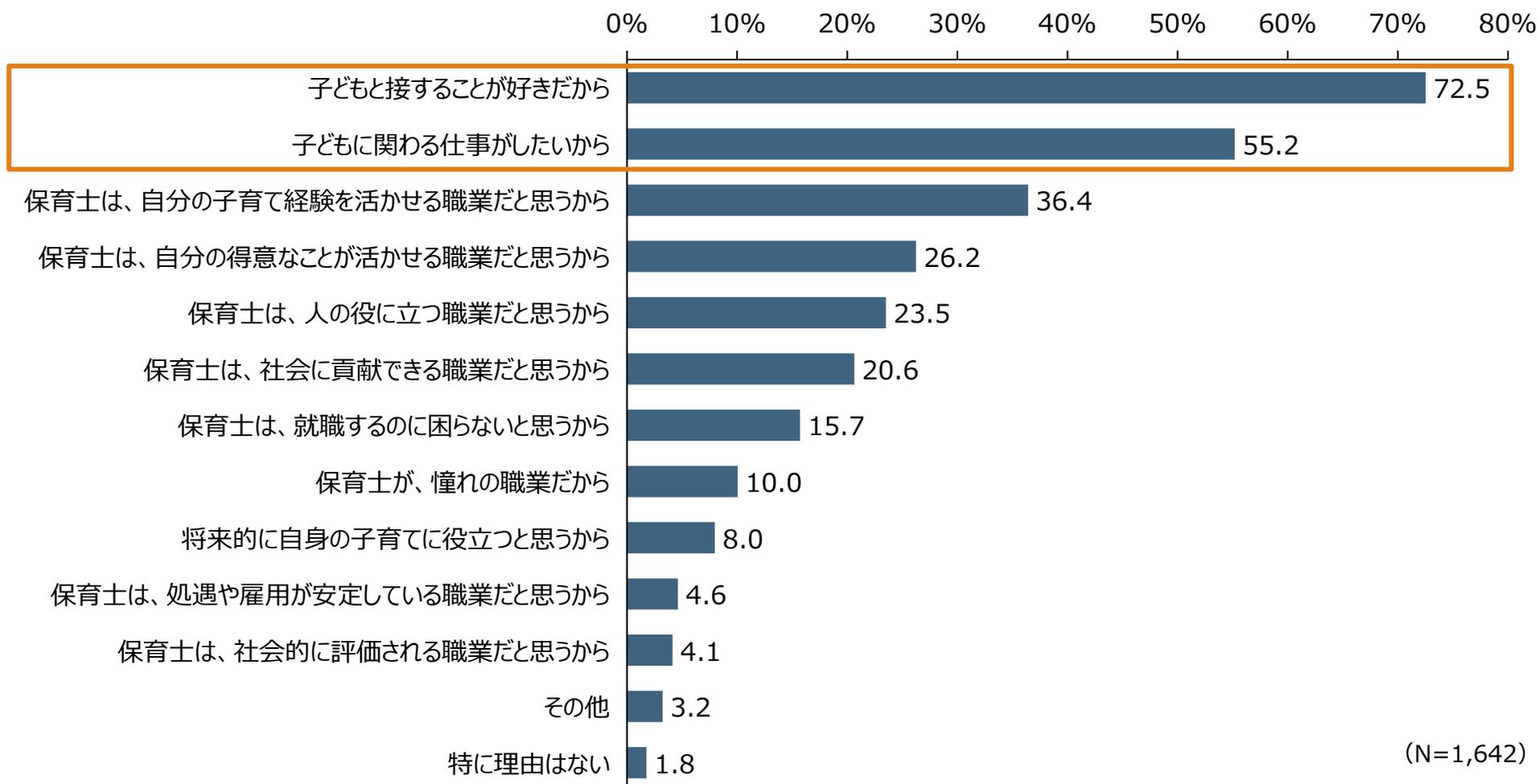


(N=2,713)

非就労の潜在保育士が保育士就労を希望する理由

資格取得時同様、子どもと接することが好き、子どもに関わる仕事がしたいという動機で、保育士として働きたいとする

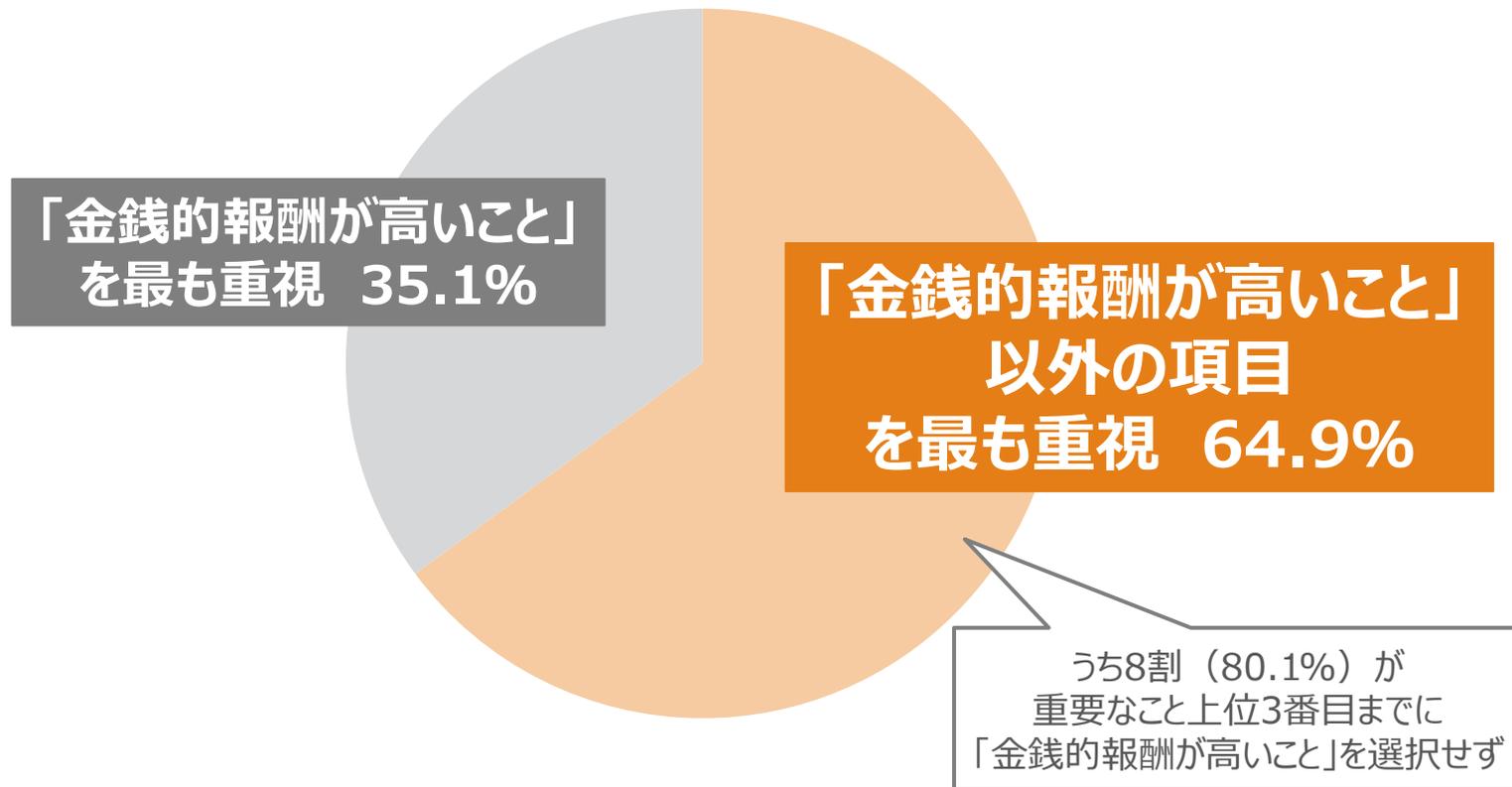
保育士として働いてみたいと思う理由（保育士就労意欲を持つ非就労の潜在保育士）



保育士就労意欲を持つ非就労の潜在保育士が保育士として就労する上で重視すること①

保育士としての就労意欲を持つ非就労の潜在保育士の64.9%が、 保育士として働くにあたって「金銭的報酬以外」が最も重要と回答

保育士として働く上で最も重要だと考えること（保育士就労意欲を持つ非就労の潜在保育士）

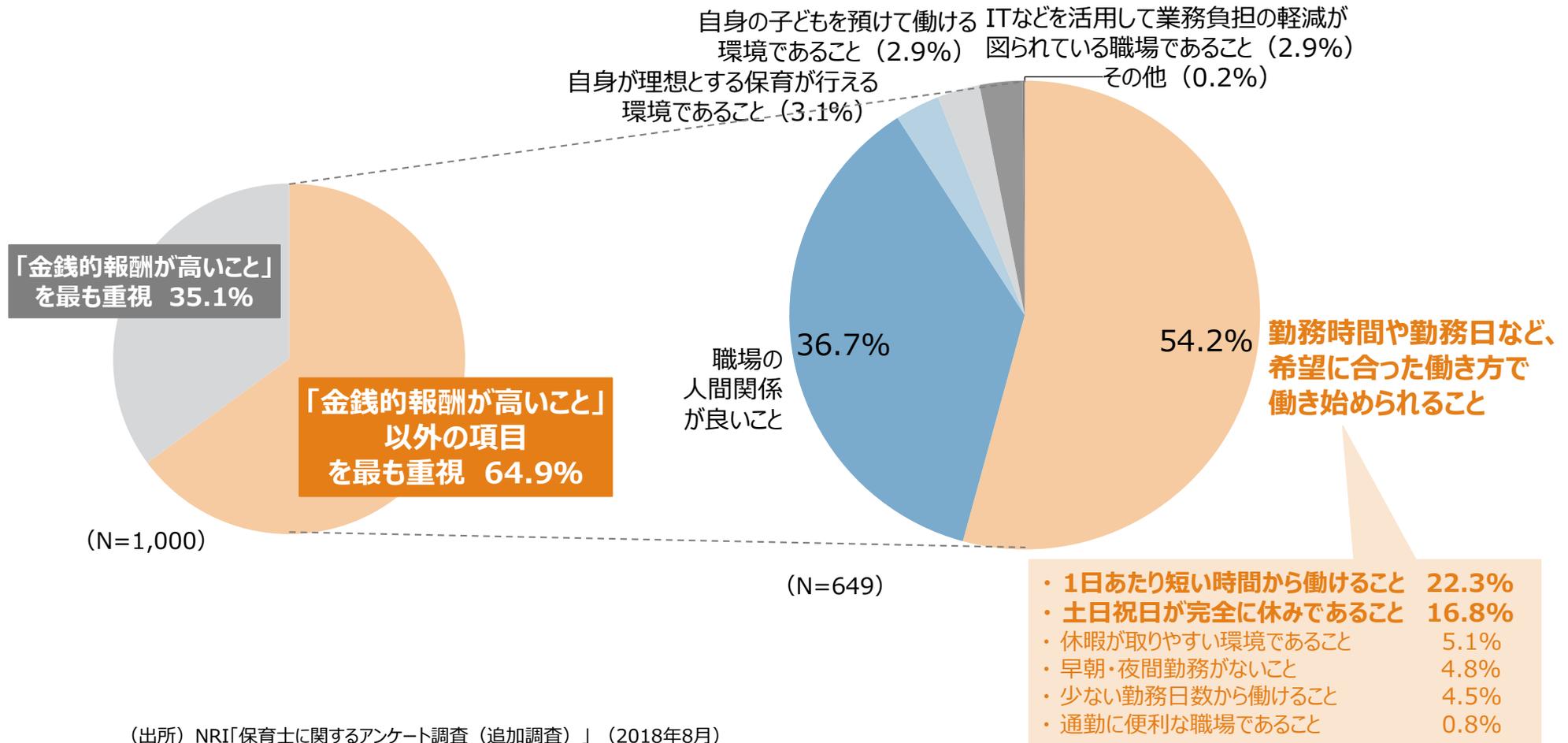


(N=1,000)

保育士就労意欲を持つ非就労の潜在保育士が保育士就労する上で重視すること②

保育士として働くにあたって最も重要なものとして「金銭的報酬以外」を選択した人の過半数(54.2%)が、「勤務時間や勤務日など希望に合った柔軟な働き方」を最も重視

保育士として働く上で最も重要だと考えること【詳細】（保育士就労意欲を持つ非就労の潜在保育士の回答）



(出所) NRI「保育士に関するアンケート調査（追加調査）」（2018年8月）

調査結果のまとめ

■ 保育士資格を持ちながら保育士として就労していない潜在保育士は多く、その半数以上が現在働いていない

- 保育士資格を持ちながら保育士として就労していない潜在保育士は、資格保有者の約7割
- 潜在保育士の約6割が、現在職種を問わず働いていない

■ 現在非就労の潜在保育士の多くが、保育士として働く意欲を持つ

- 現在非就労の潜在保育士の約6割が、「今後保育士として働いてみたい」と回答
- 1割強は、条件が合えばすぐにでも保育士として働きたいと回答

■ 保育士としての就労意欲を持つ現在非就労の潜在保育士の多くが、勤務時間や勤務日など、希望に合った働き方で働き始められることを最も重視している

- 保育士としての就労意欲を持つ現在非就労の潜在保育士の6割強が、保育士として働く上で「金銭的報酬以外」を最も重視
- 「金銭的報酬以外」を最も重視すると回答した人の過半数が、「希望に合った働き方で働き始められること」を最も重視
- 「希望に合った働き方」として最も重視されているのは、「1日あたり短い時間から働き始められること」。次いで、「土日祝日が完全に休みであること」

保育の受け皿充足に向けた保育士確保への提案

- 現在非就労の潜在保育士の中に、「希望する働き方で働き始められるなら保育士として働いてみたい」とする人が多いことに着目
- そのような潜在保育士の保育士就労を促すため、例えば短時間勤務保育士など保育士の就業形態のさらなる多様化や具体化を図るとともに、そうした働き方の多様な保育士を活用できる保育現場の実現が望まれる
- また、保育所運営事業者や保育現場が、人手不足の解消や既存職員の就労環境改善、ひいては保育の質のさらなる向上を目的として、働き方の多様な保育士の活用に前向きになれるような環境整備も期待される

保育の受け皿充足に向けた保育士確保への提案

本調査において着目した潜在保育士

**保育士としての
就労意欲の高い
現在非就労の
潜在保育士** (注1)



全国に約5.6万人 (注2)

保育士就労が実現
したと仮定した場合

**約16.9万人の子ども
の保育の受け皿確保
につながる** (注3) (注4)



金銭的処遇が
高いことを重視

希望に合った
働き方で
働き始められる
ことを重視

保育士就労を促す有効な対策

- 処遇改善
- キャリアアップ支援 など

- 保育士の就労形態多様化・具体化と「働き方の多様な保育士」を活用できる環境の整備 (短時間勤務保育士の活用促進、など)

(注1) NRI「保育士に関するアンケート調査(本調査)」(2018年7~8月)で、「条件等が合えば、今すぐにも保育士として就労してみたい」と回答した現在非就労の保育士資格保有者

(注2) 現在の保育士資格保有者数が、厚生労働省が発表している保育士登録者数(平成25年)の118.6万人と同程度と仮定して推計した

(注3) 厚生労働省「保育士確保プラン」(平成27年1月14日発表)において公表されている「新たに必要となる保育士の数」などから、保育士1人を配置することにより新たに整備できる保育の受け皿量(平均)を推計。さらに、潜在保育士の多くが希望に合った働き方を希望していることを踏まえ、保育士1人を配置することにより新たに整備できる保育の受け皿量を従来の1/2として算出し

(注4) 保育士としての就労意欲のある潜在保育士(現在他職種で働いている人と現在非就労の人の合計)は8.5万人。8.5万人の保育士就労が実現したと仮定した場合、約25.6万人の子どもの保育の受け皿確保につながる(推計方法は注3と同様)

「働き方の多様な保育士」を活用できる環境整備に向けての提案

「働き方の多様な保育士」の活用インセンティブとして、管理コスト等を加味した割増の加算等を適用してはどうか

1日あたり短時間で働く保育士資格保有者、
平日のみ働く保育士資格保有者、など

保育所が「働き方の多様な保育士」
を雇用するようになる

割増の加算等により、
保育所が利用できる運営費が増える

保育士と
保育の受け皿
確保の好循環

「働き方の多様な保育士」の
活用が、以前から働いている
保育士の就労環境改善に

保育の受け皿を
整備できる

保育士を確保できる
(離職者減少、復職者や
保育士志望者が増加)

保育の質の
維持・向上が
実現する

全ての保育士が働きやすい
就労環境が実現できる
(業務負担の軽減、休みを取りやすい、
やりがい向上、等)

増えた分の運営費を活用して、

- 保育士配置基準よりも多い保育士を配置（加配）できる
- フルタイムの保育士への処遇改善を行うことができる
- 研修機会等を確保するために保育士を加配できる など

経済成長

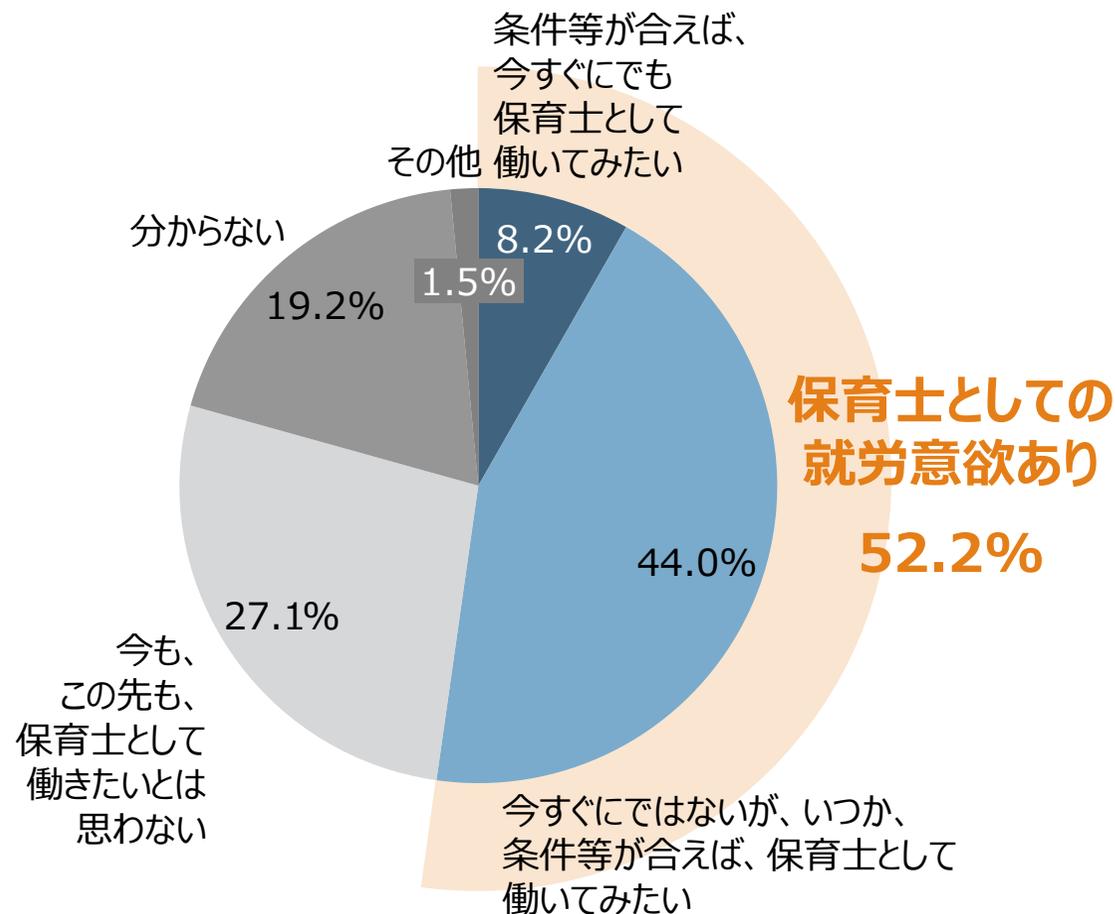
労働力確保

出生率上昇

参考資料

他職種就労中の潜在保育士における保育士就労意欲

保育士就労意欲（他職種就労中の潜在保育士）

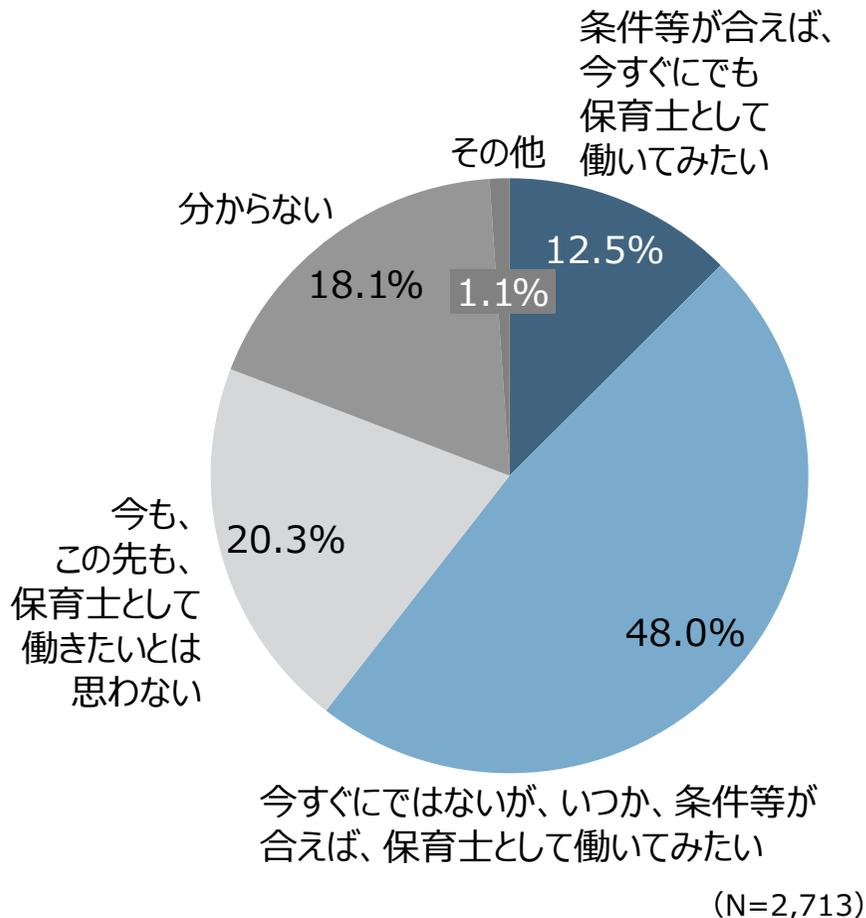


(N=2,125)

参考資料②

保育士就労意欲の高い潜在保育士の保育士就労により整備可能な保育の受け皿

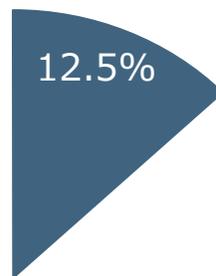
【再掲】保育士としての就労意欲（非就労の潜在保育士）



(出所) NRI「保育士に関するアンケート調査（本調査）」（2018年7～8月）

非就労の潜在保育士を対象とした場合
 ※括弧内は他職種就労の潜在保育士を含めた場合

すぐにでも保育士として働いてみたい



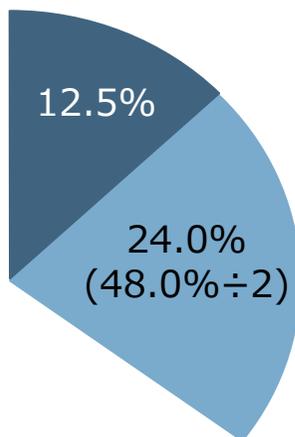
確保可能な保育士数



整備可能な保育の受け皿数



保育士として働いてみたい（すぐにでも+いくつかの50%）



確保可能な保育士数



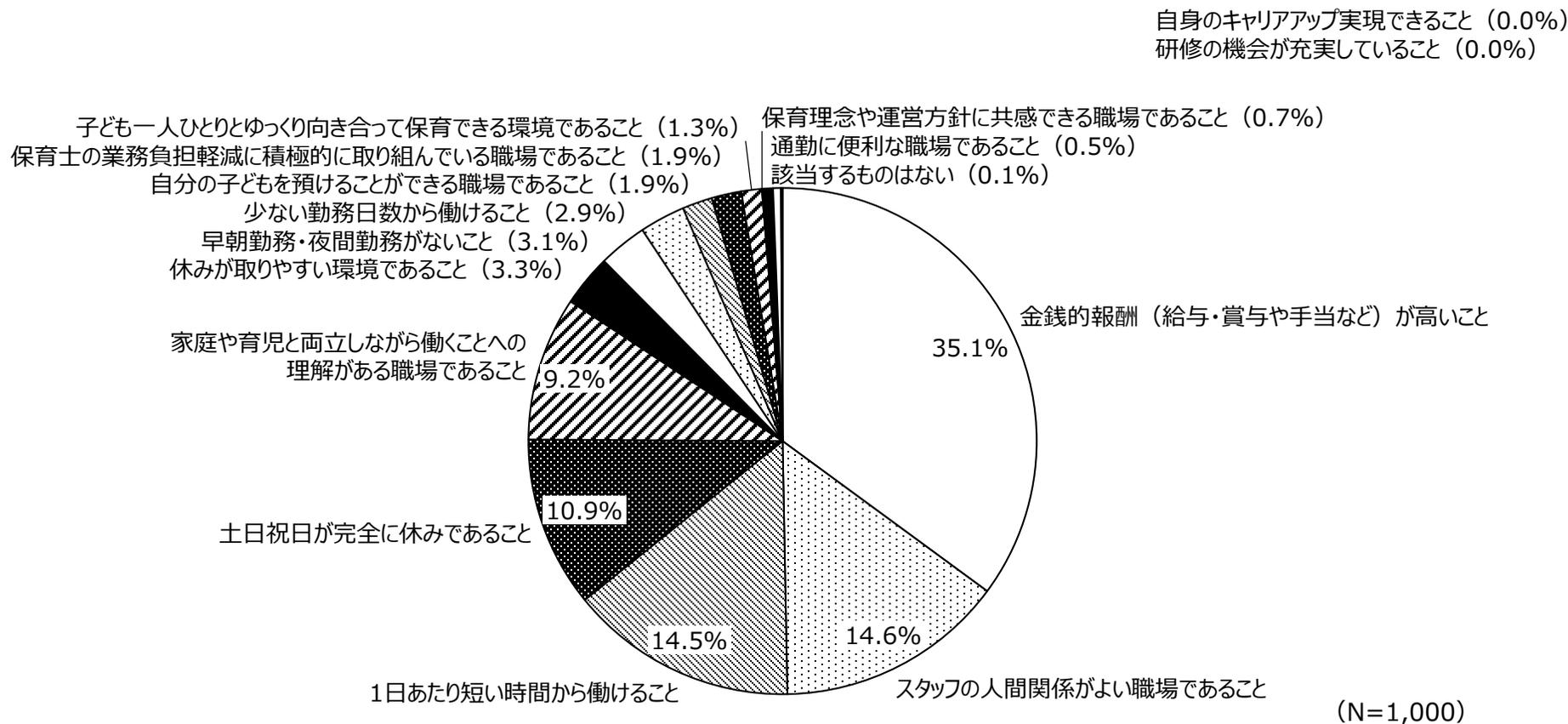
整備可能な保育の受け皿数



(注1) 現在の保育士資格保有者数が、厚生労働省が発表している保育士登録者数（平成25年）の118.6万人と同程度と仮定して推計した
 (注2) 厚生労働省「保育士確保プラン」（平成27年1月14日発表）において公表されている「新たに必要となる保育士の数」などから、保育士1人を配置することにより新たに整備できる保育の受け皿量（平均）を推計。さらに、潜在保育士の多くが希望に合った働き方を希望していることを踏まえ、保育士1人を配置することにより新たに整備できる保育の受け皿量を従来の1/2として算出した

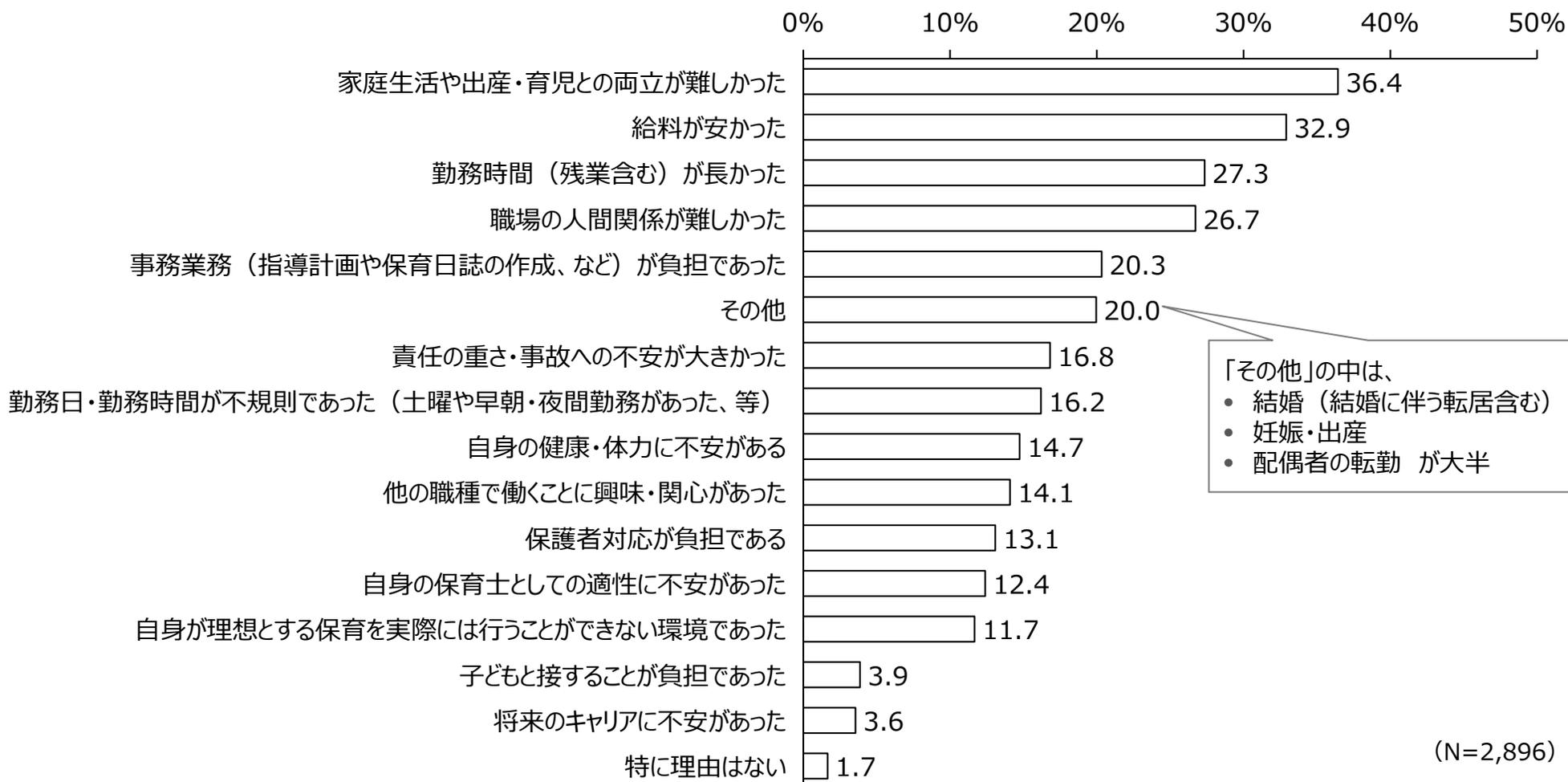
保育士就労意欲を持つ非就労の潜在保育士が保育士就労する上で最も重視すること

保育士として働く上で最も重要だと考えること（保育士就労意欲を持つ非就労の潜在保育士）



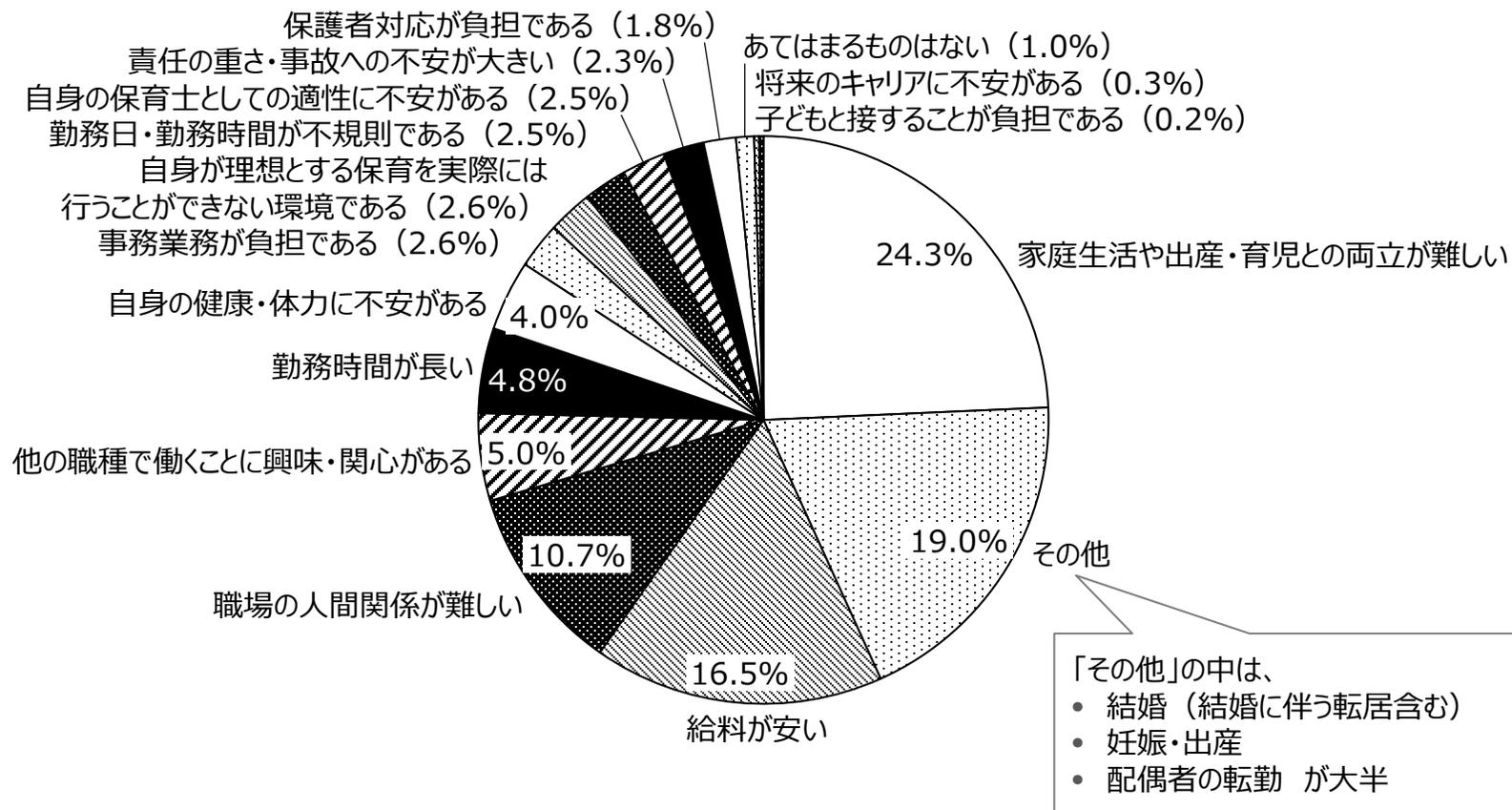
保育士就労経験がある潜在保育士が保育士を辞めた理由

保育士を辞めた理由（複数回答）



保育士就労経験がある潜在保育士が保育士を辞めた理由(最も大きい理由)

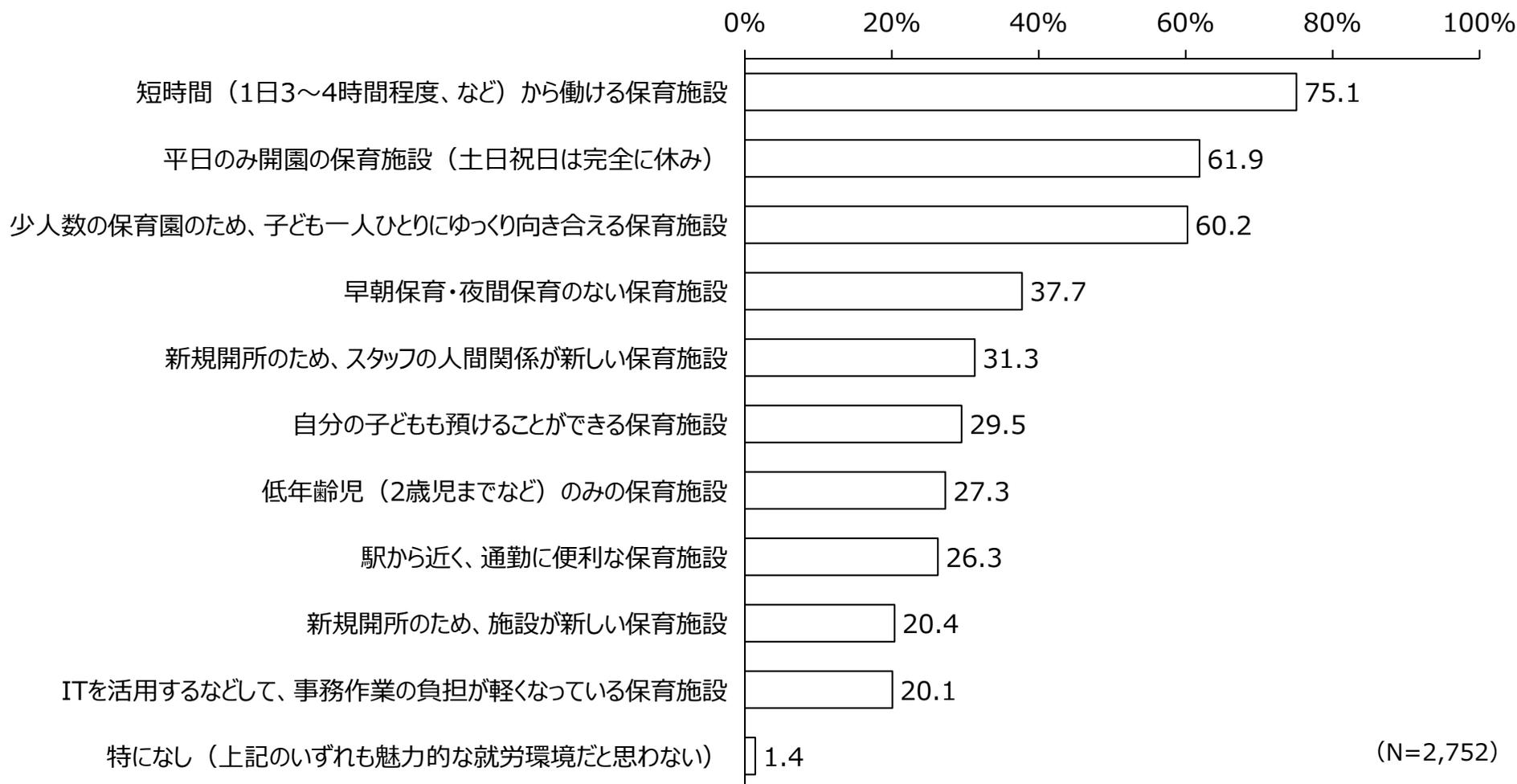
保育士を辞めた理由のうち最も大きい理由



(N=2,848)

保育士としての就労意欲を持つ潜在保育士における魅力的な就労環境

保育士として働き始めることを考える上での魅力的な就労環境だと思うもの（保育士就労意欲を持つ潜在保育士）



NRI

未来創発

Dream up the future.